



クラゲやアメーバに、^{しんぞう}心臓はあるの

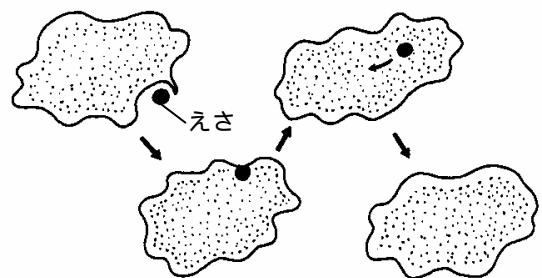
^{しんぞう}心臓は、^{けつえき}血液を^{ぜんしん}全身の^{けっかん}血管に^{おく}送る^{やくめ}役目をする

^{にんげん}人間や^{さかな}魚、^{かい}貝、^{しんぞう}ミミズなどは、^{しんぞう}心臓をもっています。これらの^{どうぶつ}動物の^{からだ}体は、^{ちい}小さい^{さいぼう}細胞がたくさん^{あつ}集まって、^{できて}います。それらの^{さいぼう}細胞が^{あつ}集まって、^ひ皮ふや^{きんにく}筋肉、^て手や^{あし}足や^い胃などを^{つく}作り、それぞれ^{からだ}体の中で、^な連絡を取りあひながら、^き決まった^{やくわり}役割をしています。これらの^{ぜんしん}全身の^{さいぼう}細胞に、^{えいようぶん}栄養分や^{こきゅう}呼吸で^と取りこんだ^{さんそ}酸素を、^{くば}配っているのが^{けつえき}血液です。^{しんぞう}心臓は、この^{けつえき}血液を、^{ぜんしん}全身の^{けっかん}血管に^{おく}送り出す^{やくめ}ポンプの役目をしています。

^{しんぞう}アメーバやクラゲには、^{しんぞう}心臓はない

あらゆる^い生き物が、^{おくねんまえ}35億年前ごろの^{ちきゅう}地球に^{あらわ}現れた、^{かんたん}バクテリアのような^{かんたん}簡単な^{つくり}つくりの^{せいぶつ}生物から、^{すこ}少しずつ^{しんか}進化して、^う生まれてきました。^{はじめ}初めのころ^{あらわ}現れた^{げんせいどうぶつ}原生動物とよばれる^{なかま}仲間は、^{からだ}体が^こ1個の^{さいぼう}細胞だけで^{できて}います。^{なかま}アメーバは、この^{なかま}仲間、^{からだ}やわらかい^{からだ}体全体が、^{ぜんたい}どの^{ほうこう}方向にも^{へんけい}変形して^{うご}動き、^{からだ}体に^{ふれた}えさを^{たいない}体内に取りこみ、^た食べかすは^{そと}外に出します。これらの^{なかま}仲間は、^{おおがた}大型の^{どうぶつ}動物の、^{くち}口や^{もん}こう門、^て手、^{あし}足などのは^{たらき}たらきをするものが、^{さいぼう}一つの^{なか}細胞の中に^{あさ}収まっています。ですから、^{けっかん}血管も^{しんぞう}心臓もいらないのです。

クラゲは、アメーバよりは^{しんか}進化が^{すす}進んだ^{どうぶつ}動物ですが、^{けっかん}まだ、^{もん}血管や^{もん}こう門をもっていない^{せん}せん。口と^{もん}こう門が^{おな}同じで、^{えいようぶん}栄養分や^{こきゅう}呼吸の^{さんそ}酸素を^{はこ}運ぶ^{くだ}管も、^{かんたん}簡単な^{つくり}つくりになっていて、^{しんぞう}心臓は^あありません。^{しんぞう}心臓がある^{どうぶつ}動物は、^{かい}貝や^{なかま}タコなどの^{なかま}仲間、^{なかま}ミミズなどの^{なかま}仲間以上に、^{からだ}体の^{つく}つくりが^{ふくざ}複雑になった^{どうぶつ}動物だけということになります。（監修・安部 義孝）



アメーバのえさのとり方

